

1. 親政 2. 院政 3. 摂関政治 4. 執権政治

1. 外国との貿易を独占して莫大な財政的基盤を築き、経済力によって政治を動かしたから。
2. 天皇の位を退いた後に上皇となつて院政を行い、自ら開いた院庁から命令を出したから。
3. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子どもを次の天皇に即位させることで、継続的に外威の立場を保ったから。
4. 地方の武士団を直接組織し、強力な軍事力を背景にして朝廷へ圧力をかけたから。

(2020年 秋田県公立入試 類似)

1. 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。

2. 禅宗の普及により、厳しい修行を通じて悟りを開くことが貴族の理想となったため。

3. 国家の保護を受けて、鎮護国家の思想に基づき巨大な寺院を建てる必要があったため。

4. 遣唐使が廃止されたことで、中国の文化を否定し、日本独自の武士の文化が成長したため。

1. 関白 2. 執権 3. 太政大臣 4. 征夷大將軍

武力によって朝廷を制御

を廃して自分自身が新しい天皇として即位することで、独裁的な政治を行う。	背景に、地方の武士団を組織して、朝廷から独立した新しい政府を樹立する。	り込み、その間に生まれた子が天皇になった際に、外祖父として政治の実権を握る。	否定し、有力な寺院と結びつくことで、僧侶を中心とした新しい政治体制を築く。
-------------------------------------	-------------------------------------	--	---------------------------------------

足利義政の時代に、書院

画、茶の湯など、現代の日本文化の源流となる文化が形成された。	陸の進んだ制度や仏教文化が直接導入された飛鳥・奈良時代の文化が続いた。	大寺南大門の金剛力士像に代表される力強く写実的な文化が生まれた。	の風土や日本人の生活感情に合わせた国風文化が発達した。
--------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------

唐の進んだ政治制度を目

ため、大宝律令などの法整備が急速に進んだ。	ある東山文化が、公家や武士の間で広まった。	によって大輪田泊の修築が行われた。	日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達した。
-----------------------	-----------------------	-------------------	-------------------------

更級日記

を守ろうとして東大寺や

建立され、国際色豊かな文化が栄えた。	筆などの文学作品が多く生まれた。	世絵などの華やかな文化が上方で花開いた。	簡素で落ち着いた趣を尊ぶ文化が広まった。
--------------------	------------------	----------------------	----------------------

清小納言 — 『方丈記』

京 さらに平安京へ

1. 恒武工自 2. 野武工自 3. 下武工自 4. 柱統工自

答え合わせ・解説

問1	答え 3 摂関政治	藤原氏が天皇の「外戚（母方の親戚）」という立場を利用して、政治の主導権を握った体制を指します。11世紀の藤原道長・頼通の親子の時代に全盛期を迎えました。のちに上皇が政治を行う「院政」や、鎌倉時代の「執権政治」と混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 3 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子どもを次の天皇に即位させることで、継続的に外戚の立場を保ったから。	藤原道長や頼通は、自身の娘を天皇のきさき（后）にし、生まれた子どもを天皇に立てる政治手段を徹底しました。これにより、常に天皇の母方の祖父などの立場（外戚）を維持し、摂政や関白として権力を振るい続けることができました。
問3	答え 1 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。	平安時代中期（1052年頃～）には、仏の教えが正しく伝わらなくなる「末法」の世が来ると信じられていました。この「末法思想」による不安から、阿弥陀如来にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が爆発的に広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂は、まさにその切実な願いを形にした建築物であり、当時の日本独自の「国風文化」の象徴でもあります。
問4	答え 3 太政大臣	平清盛は1167年に、それまで貴族の独占状態であった最高官職の太政大臣に就任しました。これにより、平氏の一族が政治の要職を占める「平氏政権」を確立し、武士が政治の実権を握る先駆けとなりました。
問5	答え 3 自分の娘を天皇のきさきとして送り込み、その間に生まれた子が天皇になった際に、外祖父として政治の実権を握る。	藤原氏や平清盛は、天皇との血縁関係を結ぶことで権力を維持しました。藤原道長は娘の彰子を一条天皇のきさきとし、その子が後一条天皇として即位することで外祖父（母方の祖父）となりました。同様に、平清盛も娘の徳子を高倉天皇に入内させ、その間に生まれた安德天皇を即位させています。このように、天皇の母方の親戚である「外戚」という立場を利用して、政治的な主導権を確保する手法が取られました。
問6	答え 4 遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や日本人の生活感情に合わせた国風文化が発達した。	一万円札の裏面に描かれた鳳凰像を有する平等院鳳凰堂は、11世紀半ばの国風文化を代表する建築物です。894年に遣唐使が廃止された後、中国文化の影響を消化しつつ、日本の風土や感性に合わせた独自の文化（国風文化）が開花しました。仮名文字の使用による『源氏物語』などの文学作品や、寝殿造の建築、大和絵などはその代表例です。
問7	答え 4 中国文化の影響を消化した上で、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達した。	菅原道真の建議により遣唐使が停止されたことで、中国からの直接的な文化の流入が一時的に途絶えました。その結果、それまでに取り入れた大陸文化を日本の貴族の生活や好みに合わせて作り替える動きが強まり、かな文字の使用や寝殿造、寝殿造の庭園といった日本独自の「国風文化」が開くこととなりました。
問8	答え 3 枕草子	清少納言によって執筆されたこの作品は、宮廷に仕えた才能ある女性の視点から、自然の情緒や人間関係、宮廷生活での出来事を自由な形式で記録したものです。平安時代の貴族社会の気風を今に伝える貴重な資料であり、日本最古の随筆の一つとしての地位を確立しています。同時期に活躍した紫式部の『源氏物語』が物語（フィクション）であるのに対し、作者の身の回りの出来事や感想を記した実録的な性質を持っています。
問9	答え 2 漢字を簡略化した「かな文字」が使われ、女性による優れた物語や随筆などの文学作品が多く生まれた。	国風文化の最大の特徴は「かな文字」の発明です。これによって、それまでの漢文では表現しきれなかった日本人の微妙な感情を表現できるようになり、紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』といった、日本文学を代表する作品が誕生しました。
問10	答え 1 摂政・関白	藤原道長らによる摂関政治の名称は、天皇の代行を務める「摂政」と、成人後の補佐役である「関白」の二つの役職に由来します。道長は、平安時代中期にこれらを通じて権勢を誇り、有名な「この世をば…」の歌を詠むほどの全盛期を築きました。なお、武士の代表である征夷大将軍や、鎌倉幕府の執権などとは、任命される背景も権力の根拠も異なります。
問11	答え 1 国風文化	894年に菅原道真の建議で遣唐使が停止されると、大陸との公的な交流が途絶えました。これにより、それまで取り入れてきた中国の文化を日本の生活や感情に合わせる動きが進み、かな文字の使用や寝殿造、大和絵といった日本独自の様式が確立されました。
問12	答え 2 紫式部 — 『源氏物語』	平安時代中期には、仮名文字が発達したことで女性による優れた文学作品が数多く生まれ、紫式部は貴族社会を描いた長編小説『源氏物語』を著しました。同じ時期、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教の信仰が広まり、その象徴として阿弥陀堂である平等院鳳凰堂が建立されました。
問13	答え 1 桓武天皇	奈良時代後半、平城京では仏教勢力が政治に強く介入し、律令政治が乱れていました。これを刷新するため、784年に長岡京へ、続いて794年に山背国（現在の京都府）の平安京へと遷都を行い、新しい政治体制を築こうとしました。